

阿波のまちなみ研究会報



2023年9月号

vol.345

- 第52回太鼓楼見聞録2~4
- 第1回 三好市旧熊谷家住宅調査報告.....5~7
- 事務局通信8

阿波のまちなみ研究会

〒770-0931 徳島市富田浜 2-10 (公社)徳島県建築士会

phone : 088-653-7570 fax : 088-624-1710

太鼓楼見聞録 (52)

三条市三条城跡と本成寺 1

谷中 俊裕 (阿南高専)

1. はじめに

通例は太鼓楼のほとんどが真宗寺院に帰属するのだが、新潟県には真宗寺院は多いものの、真宗寺院には太鼓楼を造る習慣はほぼないようで、現存物件としては例外的な1件(阿賀野市の無為信寺)のみ確認している。他に神社の太鼓楼を2件(弥彦村弥彦神社、新潟市白山神社)確認している。これらは後日紹介したい。今回と次回にかけては、太鼓楼が存在していたことの名残をその名に留める「太鼓楼」を有する三条市の寺院を紹介する。この寺院には、地元の城郭からの移築伝承のある門、前回紹介したような「梁間三間門」の二重楼門の山門、袴腰に火灯窓を配する鐘楼、塔身が方形平面の多宝塔と、興味深い建築にあふれている。三条市の立地条件と歴史の理解と城郭ファンの期待に応えるために、まずは、移築門の移築元と推定される城郭の紹介から始めたい。

2. 三条の地と三条城の立地条件と略史

三条市の中心市街は、信濃川の本来の河口から直線距離で35kmほどの内陸に位置する。地図を見れば一目で分かるように、この地は、ここから先も湾曲を繰り返しながら流れる信濃川本流と支流の中之口川に挟まれた巨大な中洲(川中島)の基部近くに当たる。また、五十嵐川など他の支流もこの地近くで信濃川に合流する。現在のように堤防が整備され大河津と関屋の二大放水路が開削される前には、河川が氾濫を繰り返していたことが容易に想像される。しかし、往時は河川交通が主要な交通手段であったため、三条の地は古来より川港の港湾都市、商業都市として栄え、軍事上の要地でもあった。

中世から近世初頭の三条城は、上述の川中島の基部から最初の括れまで(通称「須頃島」、往時「三条島」と呼ばれていた部分を含むと思われる)のうち、信濃川と五十嵐川の合流地点に突き出た部分にあったと推定されている。現在は、流路の変化により、河床や河川敷となっている。(三条競馬場跡

地付近)南北朝時代には土豪の池氏、室町時代には越後守護代を世襲した府中長尾氏の拠点の1つとなり、老臣の山吉氏が在城した。(文献1148)

近世に入っても三条の支配者は目まぐるしく変わった。その背景には、近世初期特有の大大名の転封や取潰し、将軍家による「御一門払い」(将軍継嗣の絞込み)があった。慶長3年(1598)豊臣政権下で越後の国守上杉景勝が会津に国替えとなると、堀秀治が43.35万石で春日山城に封じられ、三条にはそのうちの5万石で外威の重鎮堀直政が入城。(同297-9)慶長11年(1606)直政の死後、直次と直寄の跡目争いで、巻き添えを食らった本家忠俊と直次は除封、直寄は信濃飯山4万石に減転封。この後、堀本家に代わって、徳川家康の六男松平忠輝が60万石で福島城(堀本家の築いた新城)に入り、うち2万石で家康の老臣松平重勝が家老として三条城に入城。(同313-5)元和2年(1616)松平忠輝除封の後、近世初の独立大名として市橋長勝が4.13万石に交代。(同320)元和6年(1620)に長勝が没すると、無嗣除封のため稲垣重綱が2.3万石で交代。

(同329-31)しかし、重綱は、元和9年(1623)大阪城番に、次いで慶安元年(1648)大阪城代に任ぜられ、采地も慶安4年(1651)三河刈谷に移転。三条藩領は幕府領に編入され、出雲崎代官の支配を受けた。三条城は、長岡藩預かりとなり、寛永19年(1642)[元和9年説、寛永8年(1631)説]もあり。いずれにしても、三河刈谷転封までの稲垣重綱の采地がどこだったかが問題になる]に同藩によって破却された。(同333-4)慶安2年(1649)には、旧三条藩領は幕領から村上藩領になった。

市橋長勝の三条就封のころ、三条城の地は、信濃川の流路の変化により流失が進み、長勝によって、対岸の現在の三条城跡の地(元町地区、旧称古城町、三条市立図書館等複合施設「まちやま」付近が内郭)に新城が築かれた。新城の建設の背景には、独



図1: 三条城と本成寺の位置関係

立藩の本城としてより安定した城地を求めたことにもよると思われる。(同 322-5) 古三条城(三条島之城)跡と新三条城跡、後述の本成寺の位置をgoogle航空写真に示す。(前頁図1)

旧三条城はもちろん廃藩前に描かれた新三条城の絵図は伝わっていないが、新三条城の跡がまだ明瞭に残っていた時代の絵図は多く伝わっている。城跡周辺の施設(街路や寺社など)との位置関係をよく示しているものとして『享保裁許絵図』(文献2)、跡地の正確な形状を示すものとして『古城田畑絵図面』(文献3、図2)がよく引用される。文献2などを



図2: 古城田畑絵図面 (文献3)

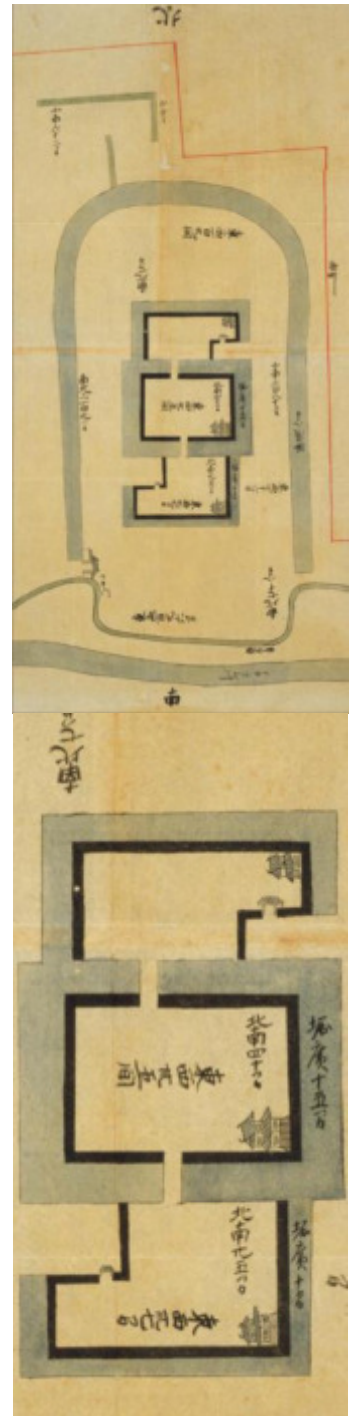
を参考に城域を現代の地図にプロットした図が文献4(88)にあるが、文献3の図面を考慮すると、文献2の内堀内の郭の形状は単純化され過ぎている感が強い。(文献2、4掲載の図面は、転載許諾が得られていないので本稿では表示していない。)しかし、内郭として南北に3郭が内堀に仕切られて並び、それらの周りも内堀に囲まれ、その周囲に二之丸(これを三之丸とする場合もあり、紛らわしいので本稿では「外郭」と呼ぶ)が巡り、その外をさらに外堀が囲む、という連郭式と輪郭式の複合型の郭配置は、「越後山條城図」(文献5、図3、4)も示しているように間違いなさそうだ。文献5の図も概念的に単純化されてはいるが、郭の寸法が記入されているところ、門や二重の隅櫓(内郭の3郭に1棟ずつ、うち2棟は石垣基壇付き)も描かれているところが注目される。文献4(88)では、その著者によって少ない資料から推定された隅櫓の想像図も示されている。ごく一部石垣が用いられていたとしても、この城は基本的に土塁で固めた城であった。(文献1 325)

文献2~5の郭配置情報を参考に筆者が試みにGoogle航空写真に郭の位置関係をプロットしたものが次頁の図5である。内郭の各郭については、角張った方形は違和感があるので、暫定的に隅丸方形

で示している。文献2、3、5によると、どうやら内郭も外郭も外堀も、西側より東側の方が北に張り出していたようである。また、文献3の具体性の高い情報を尊重すると、外郭は西側より東側の方が幅が広がったようだ。その他具体的な郭の寸法は、文献5の数字を使いたいところだが、明らかに誤っている数字があるので、文献1(325)の数字に基づいている。不思議なことに、南の外堀は、非常に細いか、図3のように描かれていない場合まである。すぐ南に五十嵐川が流れているので、広大な外堀は不要と考えられたのかもしれない。図5では南側の外堀は描いていない。

河川の下に沈んだ旧三条城はもちろん、新三条城も、江戸初期に廃城となり現在市街地となっているため、跡地の地表の遺構は全く残っていないが、新三条城跡の一角を試掘調査したところ、北側の外堀や砂利道の遺構が発見されている。(文献6)また、後述のように、史料による確証はないが、三条城からの移築との伝承のある門が法華宗本山の本成寺黒門として伝わる。

なお、三条城が破却されても、これだけの領地の支配のためには何らかの政庁が三条の地にも残ったと考えるのが自然である。実際、新三条城の跡地には、代官が出張のときに宿泊する「旅屋



上図3: 「越後山條城図」(文献5)

下図4: 同内郭拡大



図 5: 新三条城の郭配置推定図

(はたや)」が置かれ、元禄元年（1688）には、同地に「三条役所」が設けられた。（文献 1 514）

3. 三条市立図書館等複合施設「まちやま」

新三条城の内郭跡地は、近年まで主に市立三条小学校の敷地であった。現在、この敷地には、まちづくりへの意義としても、建築そのものとしても非常に興味深い施設が建っており、連載の本筋からは外れるが、この機会に紹介しておきたい。

三条小学校跡地の近隣は、(旧)市立図書館、歴史民俗産業資料館、中央公民館も並ぶ文教地区である。

(近世の城郭跡地にはよくあるケースである。) 児童数減少のため平成 29 年に三条小学校が廃校（裏館小学校に統合）となると、跡地には、令和 4 年、新図書館の建設の機会に、従来の図書館の枠に収まらない多世代・多目的な活動と交流の拠点となる複合施設として、図書館等複合施設「まちやま」がオープンした。図書館・鍛冶ミュージアム・科学教育センターが一体となった複合施設である。「まちやま」という愛称は、公募によるもので、「まちの中の大きな山のような施設のかたちと、その中にいろいろな楽しみや知識、学びがつまっている様子をイメージ」している。（文献 7）

施設の建築は、隈研吾氏の設計による。木の板を間隔を空けて並べ立体化するのは隈氏の得意とするところである。（文献 8）



写真 1: 「まちやま」の夕景

「まちやま」に先立って隣地には、平成 17 年に「三条鍛冶道場」、平成 28 年には「まちなか交流広

場「ステージえんがわ」が開設されている。「ステージえんがわ」の方は、2016 年グッドデザイン賞を受賞した手塚建築研究所の作品である。建物全体を巨大な縁側に見立て、縁側のように誰もが気軽に立ち寄り、過ごし、自己表現できるみんなのステージを意図したものだそうだ。（文献 9）

図書館としての「まちやま」の最も注目すべきは、毎週の定休日はなく、ほぼ年中無休で、午後 10 時まで開いている点である。持ち込み図書の本も問題なく、館内にカフェも併設、隣接の「ステージえんがわ」もほぼ図書館閉館まで開いており、メニューは限られるが食事もでき、こちらでも自習可能で飲食物の持ち込みもできる。教育県ならではのサービスかもしれないが、他県でももっと広まって欲しい施策である。



写真 2: 図書館閉館間際の「ステージえんがわ」

参考文献

1. 三条市史編修委員会編(1983)『三条市史上巻』、新潟県三条市。
2. 大下野他 10 名(1718 差出)『享保裁許書絵図』、田中平吉家文書(原本行方不明)、三条市立歴史民俗産業資料館が複写を作成。
3. 大橋間右衛門署名(1825)『古城田畑絵図』、三条市立図書館蔵、文献 6 の解説板に掲載されたものを引用。
4. 杉浦昭博(2019)『近世新潟の城と陣屋』、随想舎。
5. 作者不明(江戸中期～末期)「越後山修城圖」、『日本古城絵図』、北陸道之部(2) 236、国立国会図書館デジタルコレクション、<https://dl.ndl.go.jp/pid/1286500>。
6. 三条市(作成年不明)『三条城跡』、北三条駅西隣地設置の遺跡解説板。
7. 図書館等複合施設まちやま(2022～)『まちやま』、<https://sanjo-machiyama.jp/>。
8. 宮沢 洋(2022.8.3)「新潟県三条市に隈建築が相次ぎオープン、ふんわり系図書館「まちやま」と、びっくり系仕上げの「スノーピーク スパ」」、BUNGANET、<https://bunganet.tokyo/kumasanjo/>
9. (2016)「まちなか交流広場「ステージえんがわ」」、GOOD DESIGN AWARD 受賞ギャラリー、<https://www.g-mark.org/gallery/winners/9dd8b411-803d-11ed-af7e-0242ac130002>

ネット上の資料は、すべて 2023/09/14 最終閲覧。

三好市 旧熊谷家住宅

調査報告

代表幹事 坂口敏司

徳島県三好市井川町辻の旧熊谷家住宅主屋と倉庫が令和5年3月17日開催の文化審議会で登録有形文化財に文部科学大臣に答申されました。その調査を行い、所見作成をしたので報告します。

答申では、辻町の中心部にある乾物商の町屋。主屋は、当初は切妻造り平入り棧瓦葺きで、まもなく入母屋造り妻入りの三階を増築したもの。三階座敷は座敷飾りや襖絵の意匠を凝らした上質な造り。倉庫は、主屋の背面側にある切妻造り棧瓦葺きの二階建てで、乾物用の倉庫。二階は和室に改修している。歴史的町並みの往時の賑わいを伝える。と評価されている。

建物概要

- (1) 所在地 : 三好市井川町辻
- (2) 構造規模 : 木造3階建て
倉庫 木造2階建て
- (3) 建築面積 : 148m²
倉庫 58m²
- (4) 建築年代 : 明治3年(1870)
明治13年(1880)増築
(以上、棟札による)
倉庫 昭和38年(1963)
(熊谷氏より聞き取り)

熊谷家は、三好市域東部の井川町辻地区中心部の街道沿いに位置し、明治期より「ヤマヨ」の屋号で乾物等を扱う商家、東部の鴨島町より県西部へ行商に回り、顧客が増え辻町に店舗を構えた。その後、昭和21年(1946)に売買により熊谷照也が取得し商売を行った。現在は廃業し、数年空き家となっていた。令和3年近藤氏が新しい所有者となった。

井川町辻地区は、吉野川南岸の旧伊予街道に沿い発展した町並みで、吉野川の水運と旧伊予街道が通ずる交通の要衝にあり、藩政期から明治期にかけて煙草生産で栄えた町である。祖谷地域や井川町南部の井内地区より集めた葉煙草

を刻み煙草に加工し、全国に販売し栄えた、明治37年専売制により終焉を迎えるが、転業により昭和中期まで栄えた。藩政期から明治期に煙草産業で隆盛を競うように建てられた大型の民家や大正、昭和期に建てられた建物が数多く残る。

敷地は、旧伊予街道に面し奥に長い敷地である、街道に面し主屋が建ち、奥には、中央の細長い庭を挟み、南側には近年に建てられた便所浴室棟、北側には昭和中期以後に建てられた居室棟、最奥に倉庫棟が建つ。



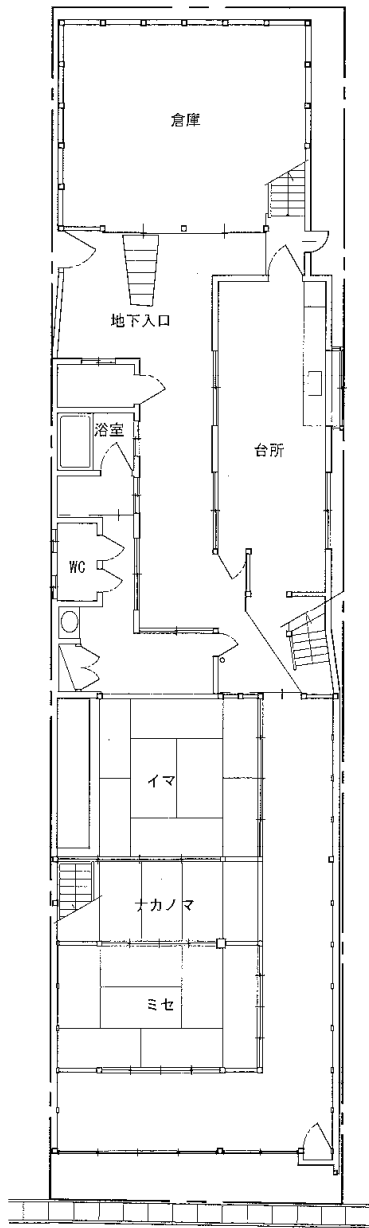
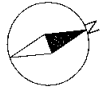
主屋正面



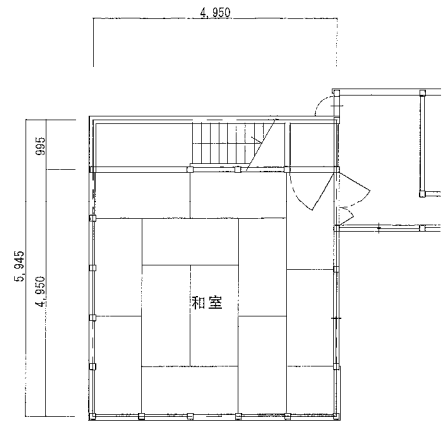
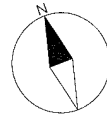
主屋側面

主屋は、旧伊予街道に東面して建ち、1階の土間と7.5畳の和室を乾物の販売店舗、その奥と2階、3階を住居としていた。現在は廃業し全て住居として使用する。正面右手の通り土間で奥の居室棟や倉庫に繋がる。

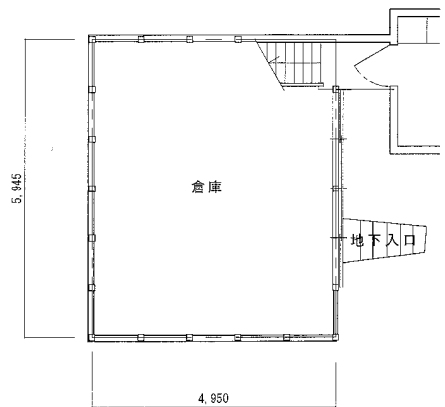
建築年代は、棟札により明治3年(1870)の建築である。東井ノ川の内田多賀蔵により建てられる。大工は藤原杵蔵範民、菅原秀郎である。



配置図



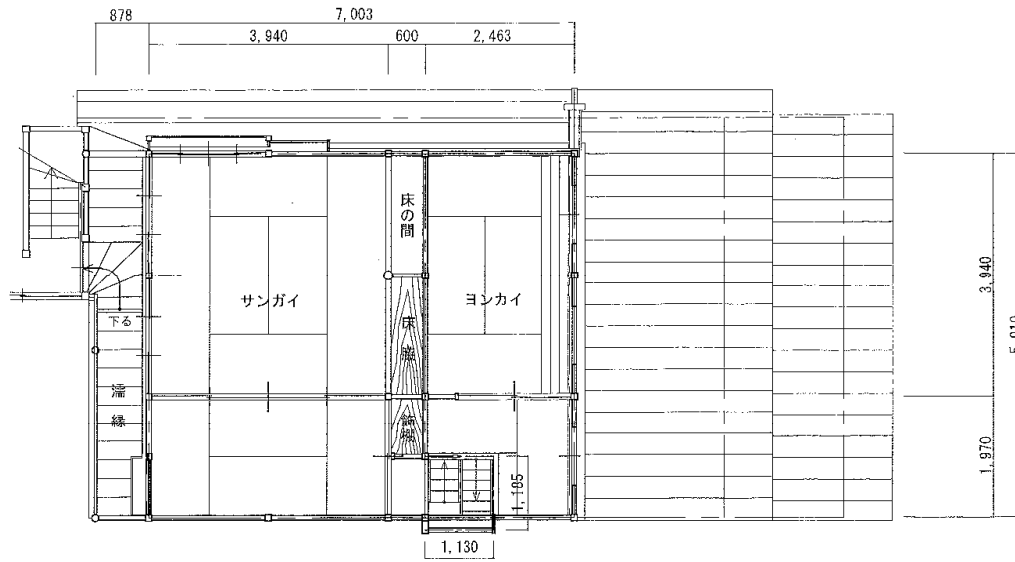
旧熊谷家倉庫 2階平面図 S=1/100



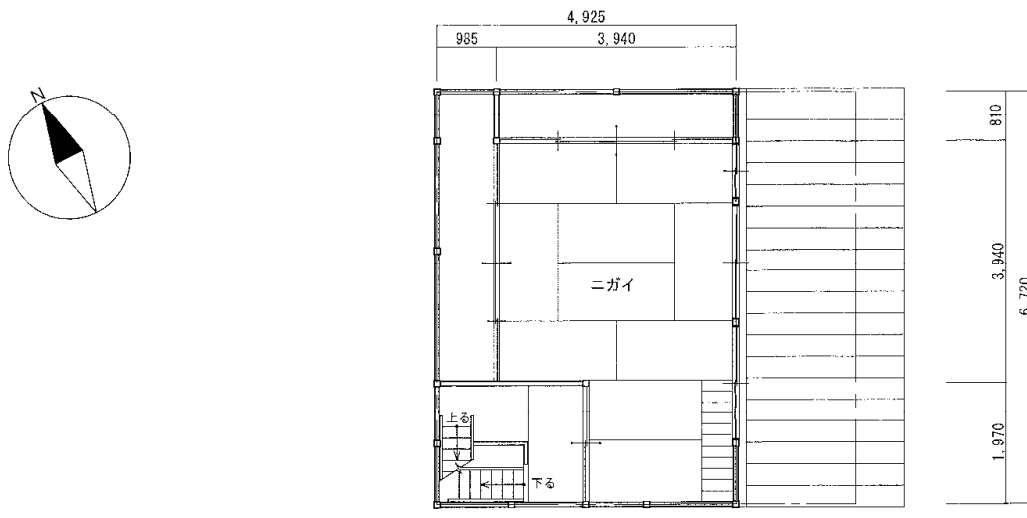
旧熊谷家倉庫 1階平面図 S=1/100

倉庫 平面図

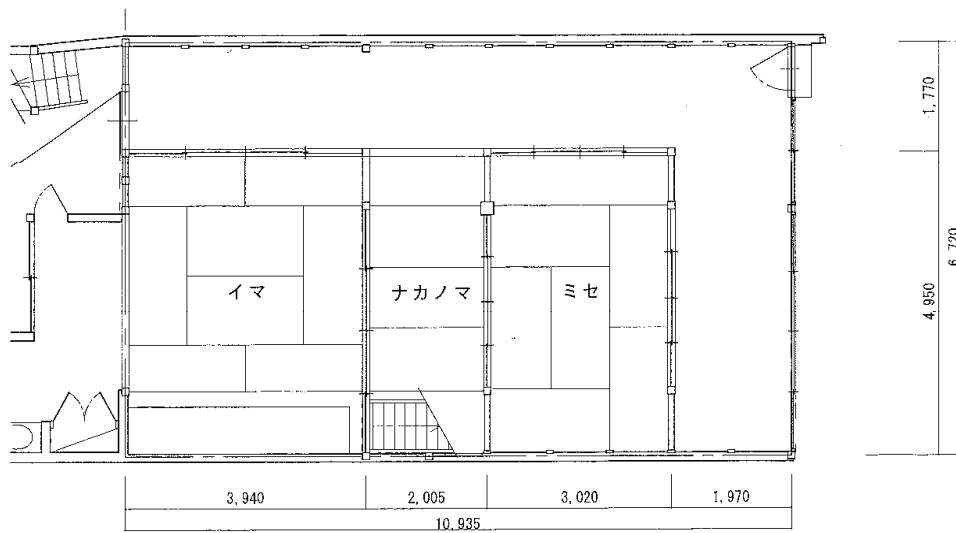
作図：橋本美保さん（三好市在住）



旧熊谷家 主屋3階平面図 S=1/100



旧熊谷家 主屋2階平面図 S=1/100



旧熊谷家 主屋1階平面図 S=1/100

主屋 平面図

【事務局通信】

令和5年7月例会の報告

◇令和5年7月19日(金)17:30～
建築士会会議室
まち研だより発送作業：鉾田、坂口、
真鍋、丸山、島田

◇令和5年7月19日(金)18:30～ 例会
建築士会会議室
坂口、谷中、林、真鍋
丸山、島田

◇坂口さんより、木村家隠居屋修理工事について、説明がありました。

◇林さんより、川崎民家園について報告がありました。



↑7月例会の様子

令和5年8月例会の報告

◇令和5年8月18日(金)18:30～ 例会
建築士会会議室
坂口、谷中、林、真鍋、丸山

◇谷中さんより、2023年度日本建築学会 四国支部研究発表会にて発表された「香川県と徳島県の仏教寺院における重層門の1階柱配置の比較」の解説がありました。

3-4. Extended ridge-eccentric 4-pillar gates 拡大重層門(仮称)
In front of main pillars are added extra pairs of support pillars. 重層門の前方(内側)に柱を追加して拡大
In Kagawa, each area has a few samples. 香川では各地に少数分散。
In Tokushima, fairly popular in northern and western areas 徳島では東北、関西でかなり多数派



↑発表スライドの一部

令和5年10月例会のご案内

◇令和5年10月20日(金)18:30～
建築士会会議室
※まち研だより発送作業はありません。

編集部より

◇9月も半ばとなり、ようやく朝晩が秋らしく過ごしやすい気候となってきましたが、酷暑の疲れなど出ておりませんか。インフルエンザの流行なども取り沙汰されております。どうぞご自愛ください。

さて私事ですが、酷暑の7月末、全国女性建築士連絡協議会令和5年度大会に参加するため、金沢まで行ってきました。訪れるのは3回目ですが、今回はホテルでなく主計町の元茶屋をリノベーションした宿に宿泊しました。風情ある町なみを堪能しつつ、木造建築密集地域の防災対策の難しさなどに思いを馳せた旅でした。



↑木造3階建てが並ぶ主計町茶屋町

☆引き続き原稿を募集しています。送付は以下のアドレスまで。

Mail to: m-style@mb.pikara.ne.jp

《まち研だより》2023年9月号 VOL. 345号
発行日 令和5年9月15日(金)

発行 阿波のまちなみ研究会
〒770-0931 徳島市富田浜2丁目10
(公社)徳島県建築士会

TEL. 088-653-7570 FAX. 088-624-1710

代表者 坂口敏司(坂口建築設計室)

事務局 真鍋憲資(studioKEN) 088-635-4272
studioken@mc.pikara.ne.jp

編集者 島田めぐみ(M-STYLE 設計室)

谷中俊裕(阿南工業高等専門学校)